

令和7年度総務省行政事業レビュー公開プロセス 取りまとめコメント

「スタートアップ創出型萌芽的研究開発支援事業」

【総論】

- ICT スタートアップの創出・育成という本事業の目的は重要であり、更に効果的な取組となるようアウトカム指標や事業の実施方法の見直しについて検討する必要がある。

【論点1「事業目的や事業内容に照らして適切なアウトカムが設定されるとともに、適切に効果検証がされているか。」について】

- アウトカム指標については、本事業の目的を踏まえた見直しが必要である。

具体的には、

- ・ 短期アウトカムにおいて、外部有識者における終了評価の評価基準については、より技術性に着目した評価とすべき。
- ・ 中期及び長期アウトカムについては、件数のみではなく全体の規模（母数）が分かるようにレビューシートの記載を工夫すべき。
- ・ 長期アウトカムについては、調達企業評価額が5億円を超えた卒業者の件数を評価するのみではなく、例えば件数が少なくても調達後企業評価額が5億円を大きく超えた企業が出た場合には、それを適切に評価できる多角的な視点での指標の設定を検討すべき。

【論点2「事業目的を達成する上で、事業の実施方法が効果的なものとなっているか。成果を高めるためにどのような工夫や取組が必要か。」について】

- 事業者のニーズや他府省の支援金額を踏まえた上で、支援金額も含めた全体的な制度設計を検討する必要がある。
- 伴走支援において、他府省庁等のスタートアップ事業と更なる連携・協力の強化を図る必要がある。

【論点3「一者応札が多く見受けられるが、改善の余地はないか。」について】

- 契約において、一者応札が多い原因の分析と改善に向けた取組を行うこと。